

平成十六年度入試報告

新たな栄光を目指して

生徒減下で合格数九三五に
進路指導部長 成島 義己

平成十六年度入試は、理数科廃止後最初の卒業学年の大学入試であり、受験者数が減少する中、これまでの合格数が維持できるかが注目されました。結果は東大二九名(新卒二〇名)を始め、京都市大に三名(新卒一名)、一橋大九名(新卒六名)、東工大一五名(新卒七名)、東北大二三名(新卒一三名)、筑波大四九名(新卒三七名)の合格を出し堂々たるものとなりました。東大合格数は、全国公立高第二位であります(現役合格数第一位)。また、一橋大の九人は本校初の快挙であり、本校の輝かしい実績に新たな一頁を加えるものとして賞賛に値します。筑波大も引き続き、全国第一位の合格数です。その結果、新卒生の国立大合格者は昨年比一名減に留まり、一・二となり、平成十一年度では一・三〇となり、平成十一年度以後では一番多い数です。

私大の方では慶応大七六名(新卒三三名)、早稲田大一四四名(新卒六八名)、上智大三七名(新卒一六名)、東京理科大九五名(新卒四〇名)の合格者を出しました。特に早稲田大は記録的数字となりました。早慶二二〇(新卒一〇二)も嘗てない大変な数字です。懸案の国立大医学部についても一九名(新卒五名)が合格しました。他の私立大等を加えた合格者の総数は九三五名(新卒四四三名)

に達しました。本校生の定数減を考慮すると、近年では大変多い数であり、内容的にも充実していると言えます。

一方、五月一日現在での新卒生の進学者数は前年比二名減の一九四名です。進学率六〇%がほぼ達成されました。

本年もこれまで指摘されてきた難関大志向が顕著で、東大・京都市大・一橋大・東北・東工・筑波大の受験数が全体の七割近くを占める中、合格率も四割台と健闘していること、前述の私立大合格実績が好調なこと等が要因としてあげられます。

難関国立大を第一志望として他は受験しないか、私立大併願をするが、早稲田・慶応・上智等の大学以外では合格しても進学しない、という構図が徹底してきている中で、進学率の回復という大変好ましい結果となりました。

昨年度卒生の方は一六〇名のうち、一三五名が進学しました。東大・京都市大・東工大・一橋大・東北大・筑波大・早稲田大・慶応大および国立大医学部などへ多くの合格者が出ていて、雌伏一年の苦労が偲ばれますが、すべてが第一志望を貫徹出来たわけではありません。むしろ、第二の策として主要私大を併願し、合格を多く勝ち取る中で進学先を選ぶという現実的な組み立てを実行している者が多くなっています。そうした事情を背景に早慶の合格数は増えたと思われまます。

本校生が志を高く保ち、果敢に難関大受験に挑戦し、合格していくのは大変喜ばしい限りで、希望に見合う実力養成という厳しい試験がこれからも続くわけですが、おかげ様で教師冥利につきる至福の時を過ごして居ると言えます。以上ご報告致します。

平成16年度入試合格状況

国公立大学

私立大学

大 学	合格者	新 卒
北海道大	6	1
東 北 大	23	13
茨 城 大	9	8
筑 波 大	49	37
千 葉 大	10	7
お茶の水大	4	3
東 京 大	29	20
東京外語大	3	2
東 工 大	15	7
一 橋 大	9	6
横 浜 国 大	3	3
大 阪 大	2	1
京 都 大	3	1
岡 山 大	3	1
山 梨 大	1	1
新 潟 大	2	1
富山医薬大	2	1
群 馬 大	2	0
東京学芸大	3	1
金 沢 大	1	1

大 学	合格者	新 卒
宮 崎 大	2	0
熊 本 大	1	1
信 州 大	2	1
鳥 取 大	1	1
徳 島 大	1	0
香 川 大	1	0
奈良女子大	1	1
東京農工大	1	0
広 島 大	1	0
国立大計	199	122
茨城県立医療	2	2
東京都立大	3	0
横浜市立大	2	2
岐阜薬大	1	1
公立大計	14	8
防 衛 大	2	0
防衛医科看護	1	1
大学校等計	4	1
国立短大計	0	0
私立短大計	0	0

大 学	合格者	新 卒
青山学院大	12	9
学習院大	11	8
慶 応 大	76	33
国際基督大	2	2
上 智 大	37	16
中 央 大	36	11
津 田 塾 大	10	8
東京女子大	11	7
東京理科大	95	40
日本女子大	11	4
明 治 大	49	20
立 教 大	38	22
早 稲 田 大	144	68
法 政 大	20	11
北 里 大	12	4
芝 浦 工 大	9	4
日 本 大	12	3
東京電機大	4	1
私立大計	718	312
合格者総計	935	443